2010年11月池田の個展を終えて思うこと

畑田美智子

3月に吹田にて10周年記念個展を経験していたのでその線に沿って進めることが出来た。地元池田にてMH工房設立10周年を記念してということで、出来るだけ多くの作品を出来るだけ多くの人達に見てもらうのを目的にしていたので、案内状を1000枚、送付、あるいは手渡すことが出来たと思う。ポスターとチラシも手作りのものだが出来るだけ配布するなど皆さんに広く協力していただいた。

初日、ギャラリーには少し早くついたが、準備をしているうちに開場時刻の１０時となり、1番乗りで開場を待っておられた年配の男性が表の看板を自分で外に出して下さって、やっと開幕となった。銀行やロータリー、文化振興財団などの華やかな胡蝶蘭の鉢が既に届けられており、武者小路千家の家元や羽曳野市長からの花束も加わり、あちこちに置けるだけの花々を配置した。来場者もほどよく来て下さるが、どうしても混み合う時とほっと一息つける時があり、次々と休みなくというよりは波があるように思う。来場者は、説明文をじっくり自分で読んでいく人と、自分でざっと一周りしてこちらに話しかけてこられる人の２つタイプもに分かれるのが普通であるが、今回は少し違い、何度もまわりながら「すごい、すごい」と連発する人、「こんなの見たことが無い、どういう才能があるのか」と感嘆する人、「このギャラリーではこれまでこんな展覧会は見たことはない」と絶賛して下さる人、いろいろな批評や意見が多く、始めは黙って聞いていたが、「ガレの日本風ですね」、「エミール・ガレ以上ですね」、「ガレより良い」とか言われ、私もさすが「ガレは大変な人です。越えるのは大変なことです」と思わず恐縮したが、「そんな弱気でどうするの」と言われてしまった。いつもは「きれいですね」とはよくいわれるが、今回の様に「すごい、すごい、こんなの見たことがない」と何度も言われたのは初めてである。

後になって冷静に考えてみると、ショウウインドウに季節折々の４つのランプが置かれ、かなりインパクトのある光を発していた。それに感じ魅せられて、思わず入ってこられた人が中にもいろいろなランプがあり光のある雰囲気に驚いて、「すごい、すごい」と感動し

て下さったというところであろうか。これだけ多くの人に感激、感動を与えられたと思うと、作家としてはうれしい限りで、作家冥利に尽きる。

芸術作品の神髄はやはり人びとを感動させ、深く感じてもらう何かがあるということであろう。人びとが何かを感じ、どう思ったのかは一人ひとりに聞いていないので分からないが、30 分も同じ作品をじっと見入っている人がいたということは何かを感じられたということであろう。

MH 工房設立 10 周年の記念の年に当たり、ここで私の作品のこれからのあり方も考えるきっかけにしたいと思う。いろいろな意味で広く発展、知られるようになり、取り上げられるようになったのも作品の運命かもしれない。これまでは、敢えて自然体で乞われるままにやって来たが、やはり作品は一人歩きしてしまうのかもしれない。それはどうなるか予想出来ることではないし、また分からないので、自分なりに努力はするが、結局より多くの人の目に触れるということが重要になってくるのであろう。今後、色々な機会に個展、展覧会、本・雑誌掲載、また何かとの魅力的コラボもやっていきたいと思う。